

SYLLABUS

2025



別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

精神看護学

科目区分	専門分野	科目名	精神看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立科学大学 精神看護学研究室 教授		
目 的	精神の健康とは何か、精神が健康であるためにはどのような力が必要かについて学び、精神の障害とはなにか、その定義や捉え方を理解する。また、ストレスや精神の健康における危機とは何かを理解し、精神障害につながる危機の予防に必要な力や支援について学ぶ必要がある。そして、人格の発達に関する代表的な理論を学び、人間の心の構造と発達、対象との関係の中で自己が形成される過程を理解する。また、現代社会における精神保健・看護ニーズの高まりの背景を知り、精神の健康の概念と精神看護を実践するものとしての視点や態度を学ぶ。				
目 標	1. 精神保健の基本と保持・増進に向けた基本的な看護について理解する。 2. 精神看護の対象理解と支援のための基本的な概念について理解する。			DP への対応 Dp2、Dp3、Dp4、Dp 5 Dp2、Dp3、Dp 4、Dp 5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	精神の健康の概念、心の機能と発達を理解する		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 精神の健康の定義、精神障害の一次予防、二次予防、三次予防、精神と情緒の発達、自我の機能、防衛機制、精神力動、転移感情について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	精神の健康に関する普及啓発、危機（クライシス）を理解する		テキスト	
	授業内容	偏見、差別、スティグマ、精神保健医療福祉の改革ビジョン、危機（クライシス）の概念、予防、危機介入、ストレスと対処、適応理論について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	身体と心は密接なつながりを持つ事、精神科看護においても身体のケアに関する高度な知識や技術が必要である事を理解する。		テキスト	
	授業予定	心身相関と健康、身体・精神疾患がある者の精神の健康、患者と家族の精神の健康、保健医療福祉に従事する者の精神の健康、ホリスティックケアについて説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	災害による人的被害を最小限にする方策と、危機に直面した人々への心理ケアについて理解する。		テキスト	
	授業予定	災害時の精神保健医療活動、災害時の精神保健に関する初期対応と治療の継続について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	精神科以外で精神保健看護の知識や技術を生かして活躍するリエゾン精神看護専門看護師の役割について理解する。		テキスト	
	授業予定	リエゾン精神看護、患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	1. オレムのセルフケア不足看護理論の考え方を理解する。 2. セルフケアへの実際の援助や、生きる力と強さに着目した援助の考え方を理解する。		テキスト	
	授業予定	食物・水分の摂取、呼吸、排泄、清潔と身だしなみ、活動と休息、対人関係、安全、レジリエンス、リカバリ（回復）ストレングス（強み、力）エンパワメントについて説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	ケアの関係の中心が感情である事、その感情を手掛かりにして自分を知り、相手を理解する事がケアの人間関係のもとになる事を理解する。また、関係をアセスメントする事の意味と方法、プロセスレコードの書き方と読み方を理解する。		テキスト	
	授業予定	感情を通して自分を知り相手を知る事、ケアの原則、ケアの			

		方法、なぜ関係のアセスメントが必要なのかについて考え、患者－看護師関係における感情体験、対処の難しい場面、医療の場のダイナミクスについて説明する。		
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開：医学書院 e テキスト		
	参考図書	③精神保健福祉 ④公衆衛生 ⑤社会保険 社会福祉 ⑥成人看護学 ⑦心理学 ⑧看護の統合と実践 ⑨家族看護学 ⑩臨床薬理学 ⑪人間関係論		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	精神看護方法論Ⅰ	単位	1単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立看護科学大学 精神看護学研究室 教授		
目的	日本の精神科医療を取り巻く状況は急速に変化している。急性期治療中心の方向に舵を切り、入院期間は短縮し、精神障害者支援法の法制度も更新されてきたが、現実には長期入院患者の数は多く、高齢化による身体合併症や認知症の増加と言う新たな問題も出現している。それに伴い精神科医療の果たすべき役割は量的にも質的にも極めて大きい。ここでは、正常範囲の心理・精神的反応から、明らかに病的状態までの幅広い精神状態に対して適切な精神看護を実践するための知識を学ぶ。				
目標	1. 精神疾患障害のある者の生物・心理・社会的側面に注目した、多角的アセスメントに基づく看護について理解する。 2. 精神疾患障害のある者の人権を守り、回復を支援する看護について理解する。 3. 精神障害がどの様に受け止められ、精神障害者がいかなる扱いをされてきたのか、精神医学・医療の歴史から理解し、精神障害を持つ人を守る法・制度について理解する。			DP への対応	
				Dp3 Dp2、Dp3、Dp4、 Dp5 Dp3、Dp5	
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 脳の部位と精神機能、神経伝達物質と精神機能・薬理作用、ストレス脆弱性仮説、脳と免疫機能、睡眠障害と概日リズムについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	精神療法とはどのようなものか。精神科ではどのような治療が行われているか理解する。また、患者にとっての回復とは何か。また、人にとっての集団の役割と意味を知り、集団のダイナミクスについても理解する。		テキスト	
	授業内容	個人精神療法、集団精神療法、集団療法、心理教育的アプローチ、認知行動療法、生活機能技能訓練、電気けいれん療法について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	精神障害を持つ人々の回復を支える様々な治療的アプローチを理解する。		テキスト	
	授業予定	リハビリテーションの概念、国際生活機能分類、長期入院患者の退院支援、精神科デイケア、精神科ナイトケア、精神科訪問看護、訪問看護について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	患者が、社会生活機能の回復を目的に外来治療の一環として、様々なプログラムに従って治療を受けられる様に考える事が出来る。		テキスト	
	授業予定	困難事例に関する行政（保健所、市町村、精神保健福祉センター）との連携について事例検討			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	家族は単なる患者の背景ではなく、ケアが必要なクライアントである事を理解し、家族をケアする際に気をつけなければならない事を理解する。		テキスト	
	授業予定	家族のストレスと健康状態のアセスメント、家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント、家族システムのアセスメントについて説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	地域で生活をする統合失調症の患者を支える家族の支援について、考える事が出来る		テキスト	
	授業予定	家族への教育的介入と支援、患者－家族関係について事例検討			

第 7 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活し、包括的かつ継続的なサービスの提供を可能にする為の社会資源やサービスについて理解する。	テキスト	
	授業予定	精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方、社会資源の活用とソーシャルサポート、セルフヘルプグループ、自立支援医療、居宅介護、同行援護及び行動援護、重度訪問介護、生活介護について説明する。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活し、包括的かつ継続的なサービスの提供を可能にする為の社会資源やサービスについて理解する。	テキスト	
	授業予定	短期入所、共同生活介護、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型、共同生活援助、地域生活支援事業、精神障害者保健福祉手帳について説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活する為にどのような調整が必要なのかを考え、社会資源やサービスの提供考える事が出来る。	テキスト	
	授業予定	社会資源の活用とケアマネジメントについて事例検討		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	人権と治療とのバランスの上に立つ「安全」について、基本的な考え方を知り、患者の安全を守る為のリスクマネジメントについて理解できる。自殺や自殺企図、自傷行為などの緊急事態にどう対処すべきか、また、その予防について理解する。	テキスト	
	授業予定	安全管理（病棟環境の整備と行動制限、自殺企図、自傷行為、攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム、災害時の精神科病棟の安全の確保）について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	自由や権利を制限せざるを得ない状況にある精神科治療において、精神障害や精神疾患を抱えた人の尊厳をいかにして守るかについて理解する。	テキスト	
	授業予定	患者の権利擁護（当事者の自己決定の尊重、入院患者の基本的な処遇、精神医療審査会、安全確保の為の隔離、身体拘束、行動制限）について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	保護室に入所し身体拘束の必要な患者の、自律性の尊重やプライバシーについて考える事が出来る。	テキスト	
	授業予定	患者の権利擁護について事例検討		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	精神医療と看護の歴史の変遷を知り、その歴史の中で精神医療や看護を発展させた人物を学ぶ。また、精神疾患・障害と地域・文化との結びつきを知り、その多様性と普遍性を理解し、精神科看護師として知っておくべき法制度について理解する。	テキスト	
	授業予定	諸外国における精神医療の変遷（フィリップ・ビネ、ウィリアム・テューク、クリフォード・W・ビーアーズ、エミール・クレペリン、ジークムント・フロイト、ユゴ・チェルツァイ、エグ・ス・モリス）、日本における精神医療の変遷（相馬誠胤、呉秀三）、精神保健医療福祉における看護師の役割について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	個人としての精神障害者の権利を保障する法律について理解する。	テキスト	
	授業予定	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態、精神保健指定医について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。		

		方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開：医学書院 e テキスト
	参考図書	③精神保健福祉 ④公衆衛生 ⑤社会保険 社会福祉 ⑥成人看護学 ⑧看護の統合と実践 ⑨家族看護学 ⑪人間関係論 ⑫在宅看護論 ⑬看護関係法令
	その他	
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点		

科目区分	専門分野	科目名	精神看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	岩本 祐一	実務経験 関連資格	大分大学医学部看護学科 基礎看護学講座精神看護学 講師		
目 的	当事者にとって「精神を病む」体験とはどのようなものかを知り、精神看護における「症状のとりえ方」の理解につなげる。また、精神機能（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など）の障害である様々な精神症状を学び、精神障害の診断と分類、それに基づく様々な精神障害についても理解する。そして、精神科ではどのような様な治療が行われているのか学び、精神科における薬物治療については正確で安全な薬の知識を学び、精神療法や環境療法、社会療法の実際についても理解する。				
目 標	①「病い」の経験と医学モデルによる「疾患」という2つの側面から精神障害を理解し、精神看護における「症状のとりえ方」を理解する。 ②主な精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な知識を理解する。 ③事例を用いて看護過程の展開の方法を学ぶ。				DP への対応
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	「精神を病む」とはどう言うものなのか、その経験を当事者の「生きる」と言う文脈の中で考え、様々な精神症状を知る事で「症状のとりえ方」を理解する		テキスト	
	授業予定	様々な病気の説明の仕方をさぐる、精神症状論と状態像、症状とは何か、様々な精神症状について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	様々な精神症状を知る事で「症状のとりえ方」を理解する		テキスト	
	授業内容	症状とは何か、様々な精神症状について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	統合失調症、統合失調症障害および妄想性障害の疾患と看護について理解する		テキスト	
	授業予定	統合失調症の症状、病型とその分類、疫学、成因、治療、発病と回復のプロセスについて説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	統合失調症、統合失調症障害および妄想性障害の疾患と看護について理解する		テキスト	
	授業予定	統合失調症の症状、病型とその分類、疫学、成因、治療、発病と回復のプロセスについて説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	気分（感情）障害、双極性障害の症状と看護について理解する		テキスト	
	授業予定	気分（感情）障害の歴史、病の体験、主要症状、経過と予後、疫学、成因、治療について説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の症状と疾患について理解する		テキスト	
	授業予定	恐怖症性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応及び適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他の神経症性障害について説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群について理解する		テキスト	
	授業予定	摂食障害、睡眠障害（精神的要因によるもの）、性機能不全、性同一障害などについて説明する			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	パーソナリティ障害、習慣および衝動の障害、知的障害（精神遅滞）、心理的発達の障害についての看護を理解する		テキスト	
	授業予定	パーソナリティ障害の分類、アルコール症とは、認知症、てんかん、知的能力障害について説明する			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	精神科ではどのような様な治療が行われているかを学ぶ。精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する		テキスト	

	授業予定	精神科における治療、薬物療法・電気けいれん療法について説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	精神科ではどのような治療が行われているかを学ぶ。精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する	テキスト	
	授業予定	精神科における治療、薬物療法・電気けいれん療法について説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	精神科治療の薬物療法と並ぶ柱である精神療法とはどのようなものか、実際の様子に用いられているのか理解する	テキスト	
	授業予定	個人療法、集団精神療法、家族療法、環境療法・社会療法について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害について理解する	テキスト	
	授業予定	自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害群、注意欠如・多動性障害、限局的学習障害、運動障害群について説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	オレムのセルフケア不足看護理論（看護過程）を理解する	テキスト	
	授業予定	事例検討（統合失調症－成人期・急性期、双極性障害－慢性期）		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	オレムのセルフケア不足看護理論（看護過程）を理解する	テキスト	
	授業予定	事例発表（統合失調症－成人期・急性期、双極性障害－慢性期）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

